

# 国語国文専攻科目 (2006年度)

全員が受講する必修科目と各自の興味や「知りたい」「やってみたい」気持ちで選べる選択科目を、各コースごとに学んでいきます。

● 必修科目 ● 選択必修科目 ● 選択科目

## コース共通科目

● 日本文学／芸術文化入門	文学や芸術の歴史、具体的な作品や研究・評論などを手掛かりに、文学、芸術の姿と私たちの関わりなどを考察します。
● 書道・書道史 I	最古の漢字から唐代までの名筆を鑑賞し、基本的な楷書から行書、草書まで、古典に立脚した正しい書法を学びます。
● マスコミ・メディア総論	放送、新聞、出版など、現代社会のメディアの役割を、具体的な考察を含めて検証していきます。
● 文学／芸術総論	文学・芸術にあらわれた子どもをテーマに、言語学、民俗学、比較文学などの側面から、文学・芸術について多角的に考察します。
● 基礎講読	文学評論などの講読を通して、日本文学、芸術文化およびメディア表現を学ぶための基礎的な知識や思考力を身につけます。
● 文章表現論	<書く>ために必要な基礎的事項について講義と、それに伴った作品やレポートの実作演習を行います。
● 日本文学史 I	上代・中古文学の代表的な作品を通して、日本文学の始まりとその展開、文学の歴史的な背景などについて学びます。
● 日本文学史 II	文学史の意義を考えながら、日本の中世(戦乱期)と近世(泰平期)文学の特質と各時代の精神について考察します。
● 日本文学史 III	明治・大正・昭和にかけての近・現代文学史を俯瞰し、数多くの小説を紹介するなかで、自らの「文学史」を構築することを試みます。
● 国語法(口語)	口語文法についての理解を深め、言語感覚を磨き、日常の中で言葉を自覚的に使う習慣を身につけます。
● 漢文学講読	日本の古典の源泉となった李白、杜甫、白居易など、唐詩の名作を読み、訓読、読解、鑑賞の能力を高めます。
● 近代語研究	漢字・平仮名・片仮名などを用いる現代の日本語表記法の実態と問題点、明治以降に成立した表記法の歴史を考察します。
● 音声表現論	音声表現の演習を交えながら、発音やアクセントなどの日本語の特色や、日本人の話し言葉の問題を取りあげます。
● 日本文学特講(古典の中の生と死)	イザナギ・イザナミの黄泉の国訪問神話、平家物語などの日本の古典文学を読み、現代の私たちに与える死と生を考えます。
● 日本文化論ⅣA・B(生活文化史)	わが国の食生活に焦点をあて、食文化の過去と現在を比較検討します。また、服飾文化の流れを追い、自己表現や集団生活のなかでの衣服の役割などについて考えます。
● 日本文化論Ⅶ(日本社会の歴史)	特に現代史に焦点をあて、おもに「昭和史」を概観し、世界と日本がどのような関係をもってきたのか、満州事変以降の戦争の本質は何かを考察します。
● 比較文化論Ⅰ(イギリス文学)	英文学を基礎に、2カ国以上の文学テキストにみられる交流や影響などを考察し、世界的な文学の流れを明らかにします。
● 比較文化論Ⅲ(中国文学)	日本文化の根拠をなす漢字文化について理解を深め、中国の古典を講読しつつ、日本文化との関係を探究します。
● 比較文化論Ⅳ(越境の詩学)	フランス文学のクローデルと日本近世文学の小林一茶を比較研究します。
● 比較文化論ⅤA(比較行動学)	ヒトの無意識で日常的な行動と動物と比較検討し、その意味と成立過程を、さまざまな視点から解き明かします。
● 比較文化論ⅤB(個の文化論)	時代や異文化の影響を受け、定義以上の味わいを含む個と個人にまつわる言葉と思想の文化を探ります。
● 比較文化論Ⅵ(東アジアの民俗)	環東シナ海文化という視点から、日本とその周辺の地域の民俗を比較し、日本列島の人と文化について考えます。
● 比較文化論Ⅶ(歌謡の世界)	日本各地に残る民謡と、中国および朝鮮半島に伝わる民謡の比較を通して、時代性や地域性を含みつつ歌謡の普遍性と特殊性について考察します。
● 日本文化論ⅩI(書物の文化)	明治以前に書物の主流であった写本や版本の種類・仕組み・装丁・紙・取り扱い方法をはじめ、書物をめぐる歴史と文化を幅広く学びます。

## 日本文学コース

● 日本文学演習	日本文学に関するさまざまなテーマに基づいてディスカッションなどを行い、研究成果をレポート(小論文)にまとめます。
● 国語学演習	夏目漱石の『吾輩は猫である』を読み、漱石の文学にふれると同時に、その言葉の特徴について考えます。
● 日本文学講義ⅢA(源氏物語の世界)	源氏物語五十四帖の原文をピックアップして読み、源氏物語とはどのような物語なのか、どのように変化していくのかをつかみます。
● 日本文学講義ⅢB(枕草子)	清少納言が生きた後宮社会とその時代背景に留意し、『枕草子』は何を描き、何を描かなかつたかを考えます。
● 日本文学講義ⅢD(王朝文化とメディア)	通信手段が発達していない1000年前の王朝社会における高度なメディアテクニクを振り返り、本当に良いメディアとは何かを考えていきます。
● 日本文学講義ⅢC(大鏡)	女流文学全盛期であった平安時代、政治世界は男性中心でした。それを真正面から取り上げた『大鏡』を、当時の社会や作者の意図を考えながら読んでいきます。
● 日本文学講義ⅢE(古今集・新古今集)	平安時代から鎌倉時代初頭にかけての和歌について、基本的な和歌の知識を身につけながら、『古今集』『新古今集』に収められた歌を中心に一首一首じっくりと味わいます。
● 日本文学講義Ⅲ(芭蕉)	新しく出現した芭蕉自筆の『おくのほそ道』草稿本。あらためて「なぜ、おくのほそ道か?」と問いかけ、新しい「読み」をめざします。
● 日本文学講義ⅥA(<都市>を読む)	日本近・現代文学を代表する<都市>をめぐる短編を読み、<都市>について考えるとともに小説を読む基本的な姿勢を身につけます。
● 日本文学講義ⅥB(現代女性作家を読む)	吉本ばなな・江國香織・湯本香樹実の小説を読み、映画化されたものと比較することで、『小説』というジャンルの特性を考えます。
● 日本文学講義ⅥC(児童文学)	おとぎ話、童話などを含めて、児童文学が成立する以前の作品、作家を紹介し、児童文学とは何かについて考察します。
● 日本文学講義Ⅶ(近代文学)	宮沢賢治の人と作品について、伝記的事実をもとに講読し、近代児童文学とは何かを論説します。
● 国語法(文語)	古典文法の基礎を学びます。文法への理解を深めると同時に、実際に古典を講読する際に役立つ習慣を身につけます。
● 日本文学講義Ⅹ(映像論)	映像をテキストとして分析します。映像テキストの構造を細かく分析することで、文学テキストの分析にも応用できるようにします。
● 日本文学講義ⅩA(安倍晴明の説話学)	安倍晴明の説話や伝承を読み解き日本文化の中の隠れた多様な領域を探ることを試みます。
● 日本文学講義Ⅳ(徒然草)	中世の代表作『徒然草』を読んで、古典作品に親しみ、作者兼好法師が考えていたこと、感じていたことを理解します。
● 国語学講義Ⅰ・Ⅱ	辞書についての理解を深めるとともに、より良い利用法などを考えます。また、近世～近代の作品にみえる異字体について考えます。
● 日本文化論Ⅰ(古典芸能の世界)	中世の芸術論でも際立つ、世阿弥の「能楽論」を読み、先人の芸に対する厳しさと人間の内面への洞察にふれます。
● 日本文化論Ⅱ(民俗学)	民俗学の祖、柳田国男の生涯と思想をみながら、年中行事や通過儀礼など、日本の民俗社会の「時間」について考えます。
● 日本文化論Ⅲ(児童文学)	ファンタジーや絵本など、児童文学のピュアな想像力の世界にふれ、また実際に自由に創作し、表現力を高めます。
● 日本文化論Ⅵ(俳句入門)	近代俳句の歴史と方法を学び、俳句と連句を創作します。詩作を通して、詩心と豊かな想像力を養います。
● 日本文化論Ⅴ(地域文化論)	農業を営みながら、地域の情報発信と全国ネットワークを実現した女性のエッセイを読み、現代日本の地方・地域文化を考えます。
● 日本文化論Ⅶ(落語研究)	落語という大衆芸能について、VTRやテープによる鑑賞を通じてさまざまな角度からその本質を考えていきます。
● 日本文化論Ⅹ(近・現代文学の女性)	日本文学に描かれた女性像について、家族と恋愛の視点から考えます。ジェンダー(文化的性差)が大きなテーマです。
● 書道・書道史Ⅱ	1年次で学んだ古典の技法を活かした作品制作。現代の言葉を誰にも読めるように表現する「漢字かな交じりの書」に挑戦してみます。
● 国語学概論	音韻論、文学論、語彙論を中心に、方言や敬語についてふれながら、国語学とはどのような研究を行う学問が概説します。



## 芸術文化コース

● 芸術文化演習	芸術や文化に関するさまざまなテーマに基づいて考察・討議・分析・批判をし、また創作を行います。
● 芸術文化表現Ⅰ(エッセイ)	原稿執筆の基礎的練習、文の照応や語法、文章構成の考察。さらに、実際にエッセイを書き、書く喜びが味わえるよう、学びます。
● 芸術文化表現Ⅱ(小説論Ⅱ)	理論篇と実践篇に分け、小説の読み方と同時に書き方を学びます。古今の名作を参考に自分の作品を仕上げます。
● 芸術文化表現Ⅶ(書道Ⅱ)	書は文字を素材にした芸術です。古筆のかな文字を基本に感性を磨き、私たちの生活のなかに書を芸術として取り入れていきます。
● 芸術文化表現Ⅵ(俳句入門)	近代俳句の歴史と方法を学び、俳句と連句を創作します。詩作を通して、詩心と豊かな想像力を養います。
● 芸術思想研究Ⅰ(ミュージカル論)	17世紀のオペラから発展していったと言われるミュージカルを、年代別・作品の形態別・作者別に考察し、魅力を探ります。(観劇あり)
● 芸術思想研究ⅡA(宝塚研究)	創立90周年を迎えた宝塚歌劇の出発期から現在までの歴史とともに文藝、音楽、舞踊、演劇などのさまざまな特質を研究します。(観劇あり)
● 芸術思想研究ⅡB(美学)	美学の基礎概念を学び、さらに思想上に現れたさまざまな「美」の論議について考えます。
● 芸術思想研究Ⅲ(美術とデザイン)	デザインを軸に歴史をたどり、その時代の表象世界をかいま見ること、時代精神やその時代の価値観について討論します。
● 芸術思想研究Ⅷ(デザインⅡ)	デザインを視覚言語によるコミュニケーション媒体としてとらえ、デザインの今日的なさまざまな意味について考えます。
● 芸術思想研究Ⅴ(映像論)	映画の映像がどのような仕掛けで観客をその世界に引き込むのか、映画をテキストとして分析し、批評意識を高めます。
● 芸術思想研究Ⅵ(落語研究)	落語という大衆芸能について、VTRやテープによる鑑賞を通じてさまざまな角度からその本質を考えていきます。
● 芸術思想研究Ⅶ(西洋演劇史)	西洋演劇の歴史的展望を得ることを狙いとし、その近代日本への導入の経緯について比較文化的に考察します。
● 芸術思想研究Ⅹ(映像表現法)	映像について具体的、実践的に理解し、時にはデジタルカメラで撮影を行うなどの実習を通して、日常生活の中で、的確な映像表現ができるように学びます。
● 日本の芸能論	中世の芸術論でも際立つ、世阿弥の「能楽論」を読み、先人の芸に対する厳しさと人間の内面への洞察にふれます。
● 日本の芸術理論A・B	中古・中世の音楽を聴き、中世に成立した楽書を読むことで、日本の音楽理論を考えます。また、日本の古典的な文学論・芸術論を時代を追って眺め、芸術について考えます。
● 日本文化論Ⅱ(民俗学)	民俗学の祖、柳田国男の生涯と思想をみながら、年中行事や通過儀礼など、日本の民俗社会の「時間」について考えます。
● 日本文化論Ⅴ(地域文化論)	農業を営みながら、地域の情報発信と全国ネットワークを実現した女性のエッセイを読み、現代日本の地方・地域文化を考えます。
● 日本文化論Ⅹ(近・現代文学の女性)	日本文学に描かれた女性像について、家族と恋愛の視点から考えます。ジェンダー(文化的性差)が大きなテーマです。
● 芸術思想研究ⅩI(演劇論)	現代演劇の傑作を厳選し、それらの舞台を具体的に分析、そこにかくされた魅力、意味をさぐります。

## メディア表現コース

● メディア表現演習	広告という現象の分析を通して、現代社会の多様な姿を考察します。
● メディア社会論Ⅰ(ことばとメディアと社会)	メディアとは何かを考えます。また、ことばや文化との関わりについて、情報の目利きとして生きることの楽しさを考えます。
● メディア社会論Ⅴ(点字・朗読とメディア)	人間の五感のうちひとつの感覚がなくても、それは人間としての大きな個性です。そのすばらしい個性のありかを探り、国際的な点字図書館の現状を知り、朗読図書館の作成を学習します。
● メディア社会論Ⅲ(福祉と女性)	メディアに登場した人々の意識や行動を、生活実態や福祉制度と結びつけて理解することによって、等身大の福祉社会を考察します。
● メディア社会論Ⅳ(地域文化論)	農業を営みながら、地域の情報発信と全国ネットワークを実現した女性のエッセイを読み、現代日本の地方・地域文化を考えます。
● メディア社会論Ⅶ(<都市>を読む)	日本近・現代文学を代表する<都市>をめぐる短編を読み、<都市>について考えるとともに小説を読む基本的な姿勢を身につけます。
● メディア社会論Ⅷ(王朝文化とメディア)	通信手段が発達していない1000年前の王朝社会における高度なメディアテクニクを振り返り、本当に良いメディアとは何かを考えていきます。
● メディア社会論Ⅹ(編集デザイン)	ワープロ、コピー機などの道具を使って編集デザイン・本づくりにトライしたり、写真撮影を通して、自由な表現を試みます。
● メディア表現論Ⅰ(デザイン)	デザインを視覚言語によるコミュニケーション媒体としてとらえ、デザインの今日的なさまざまな意味について考えます。
● メディア表現論Ⅱ(小説論)	理論篇と実践篇に分け、小説の読み方と同時に書き方を学びます。古今の名作を参考に自分の作品を仕上げます。
● メディア表現論Ⅲ(書道)	書は文字を素材にした芸術です。古筆のかな文字を基本に感性を磨き、私たちの生活のなかに書を芸術として取り入れていきます。
● メディア表現論Ⅳ(エッセイ)	原稿執筆の基礎的練習、文の照応や語法、文章構成の考察。さらに、実際にエッセイを書き、書く喜びが味わえるよう、学びます。
● メディア表現論Ⅵ(俳句入門)	近代俳句の歴史と方法を学び、俳句と連句を創作します。詩作を通して、詩心と豊かな想像力を養います。
● メディア表現論Ⅶ(映像表現法)	映像について具体的、実践的に理解し、時にはデジタルカメラで撮影を行うなどの実習を通して、日常生活のなかで、的確な映像表現ができるように学びます。
● メディア文化論Ⅱ(落語研究)	落語という大衆芸能について、VTRやテープによる鑑賞を通じてさまざまな角度からその本質を考えていきます。
● メディア文化論Ⅲ(映像論)	映画の映像がどのような仕掛けで観客をその世界に引き込むのか、映画をテキストとして分析し、批評意識を高めます。
● メディア文化論Ⅳ(近・現代文学の女性)	日本文学に描かれた女性像について、家族と恋愛の視点から考えます。ジェンダー(文化的性差)が大きなテーマです。
● メディア文化論Ⅴ(日本の芸術理論A)	現在まで伝承されている中古・中世の音楽を聴き、また、中世に成立した楽書を読むことで、日本の音楽理論を考えます。
● メディア文化論Ⅵ(日本の芸術理論B)	世阿弥の能楽論である「風姿花伝」など、日本の古典的な文学論・芸術論を時代を追って眺め、芸術について考えます。
● メディア文化論Ⅰ(古典芸能論)	中世の芸術論でも際立つ、世阿弥の「能楽論」を読み、先人の芸に対する厳しさと人間の内面への洞察にふれます。
● メディア文化論Ⅶ(民俗学)	民俗学の祖、柳田国男の生涯と思想をみながら、年中行事や通過儀礼など、日本の民俗社会の「時間」について考えます。
● 国語学概論	音韻論、文学論、語彙論を中心に、方言や敬語についてふれながら、国語学とはどのような研究を行う学問が概説します。

◆英語英文専攻の科目も履修可能になりました(次の科目の中から8単位を上限として卒業要件に含めることが可能)

- 基礎英会話 ● カナダ研究 ● アメリカ研究 ● イギリス研究 ● ホームステイ英語 ● 海外英語研修Ⅰ(カナダ) ● 海外英語研修Ⅱ(アメリカ) ● 海外英語研修Ⅲ(イギリス)
- 異文化間コミュニケーション ● 日本文化表現 ● ビジネス英語A ● ビジネス英語B ● ディズニー研究A ● ディズニー研究B ● 中国語入門 ● フランス語入門